

2027 年度 帝京大学ちば総合医療センター皮膚科

A. 専門医研修の教育ポリシー：

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

B. プログラムの概要：

本プログラムは帝京大学ちば総合医療センター皮膚科を研修基幹施設として、慶應義塾大学医学部附属病院皮膚科、帝京大学医学部附属病院皮膚科、千葉大学医学部附属病院皮膚科、東海大学医学部附属病院皮膚科、埼玉医科大学総合医療センター皮膚科、東邦大学佐倉医療センター皮膚科、東京医科大学病院皮膚科を研修連携施設として、研修施設群を統括する研修プログラムである。なお、本プログラムは各研修施設の特徴を活かした複数の研修コースを設定している。（項目Jを参照のこと）

C. 研修体制

研修基幹施設：帝京大学ちば総合医療センター皮膚科

研修プログラム統括責任者（指導医）：佐藤 友隆 専門領域：皮膚真菌症、皮膚潰瘍、爪疾患

研修プログラム副統括責任者（指導医）：深田 義仁 専門領域：乾癬、アトピー性皮膚炎

施設特徴：

千葉県房総南部の皮膚病センターとなっており、形成外科と合同で診療している。専門外来として、生物学的製剤外来を設けており、外来患者数は1日平均40名にのぼり、豊富な経験を積むことが可能。また、年間手術件数は100名を超える。研究の面では、皮膚真菌症、HPV関連腫瘍を研究しており、指導医との連携を強め、多様な研究結果を創出している。地域連携学術集会などを積極的に開催し、地域の先生方との情報交換、交流を深めている。

研修連携施設：帝京大学医学部附属病院

所在地：東京都板橋区加賀2-11-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：多田 弥生

特徴：大学病院本院であり幅広い疾患が経験できる。

研修連携施設：東京医科大学病院

所在地：東京都新宿区西新宿6-7-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：原田 和俊

特徴：大学病院本院であり様々な疾患が経験できる。

研修連携施設：埼玉医科大学 総合医療センター

所在地：埼玉県川越市鴨田1981番地

プログラム連携施設担当者（指導医）：福田 知雄

特徴：川越の基幹病院であり様々な疾患を経験できる。

研修連携施設：慶應義塾大学病院

所在地：東京都新宿区信濃町35

プログラム連携施設担当者（指導医）：永尾 圭介

特徴：大学病院本院であり様々な疾患が経験できる。

研修連携施設：東邦大学医療センター佐倉病院

所在地：千葉県佐倉市下志津564-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：樋口 哲也

特徴：佐倉の基幹病院であり様々な疾患が経験できる。

研修連携施設：東海大学医学部附属病院

所在地：神奈川県伊勢原市下糟屋 1 4 3

プログラム連携施設担当者（指導医）：馬淵 智生

特徴：大学病院本院であり幅広い疾患が経験できる。

研修連携施設：千葉大学医学部附属病院

所在地：千葉市中央区玄鼻1-8-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：猪爪 隆史

特徴：大学病院本院であり幅広い疾患が経験できる。

研修管理委員会に関して

研修基幹施設には、専攻医の研修を統括的に管理するための組織として以下の研修管理委員会を置く。研修管理委員会委員は研修プログラム統括責任者、プログラム連携施設担当者、指導医、他職種評価に加わる看護師等で構成される。研修管理委員会は、専攻医研修の管理統括だけでなく専攻医からの研修プログラムに関する研修評価を受け、施設や研修プログラム改善のフィードバックなどを行う。専攻医は十分なフィードバックが得られない場合には、専攻医は日本専門医機構皮膚科領域研修委員会へ意見を提出できる

研修管理委員会委員：

委員長：佐藤 友隆（帝京大学ちば総合医療センター）

委員：多田 弥生（帝京大学医学部附属病院）

委員：永尾 圭介（慶應義塾大学病院）

委員：猪爪 隆史（千葉大学医学部附属病院）

委員：福田 知雄（埼玉医科大学 総合医療センター）

委員：馬淵 智生（東海大学医学部附属病院）

委員：樋口 哲也（東邦大学医療センター佐倉病院）

委員：原田 和俊（東京医科大学病院）

他科・他職種

形成外科：小林尚史（帝京大学ちば総合医療センター形成外科准教授）

看護師：佐藤朗子（帝京大学ちば総合医療センター皮膚科病棟師長）

研修資源実績（外来患者数・入院患者数・指導医数：本プログラムの按分数）

	1日平均外 来患者数	1日平均入 院患者数	局所麻酔年間手術数 （含生検術）	全身麻酔年 間手術数	指導 医数
帝京大学ちば総合医療センター	39.3	3.3	226	3	0.3
帝京大学医学部附属病院	1	1	822	87	0.1
東京医科大学病院	9.1	1	870	54	1
埼玉医科大学 総合医療センター	0.1	0.1	825	46	0.1
慶應義塾大学病院	0.1	0.1	390	76	0.1
東邦大学医療センター佐倉病院	0.1	0.1	588	1	0.1
東海大学医学部附属病院	0.1	0.1	878	22	0.1
千葉大学医学部附属病院	0.1	0.1	602	77	0.1
合計	49.9	5.8	5201	366	1.9

D. 募集定員：1名

①通常プログラム：1名

E. 研修応募者の選考方法：

書類審査、小論文および面接により決定（帝京大学ちば総合医療センター皮膚科のホームページ等で公表する）。また、選考結果は、本人あてに別途通知する。なお、応募方法については、応募申請書を帝京大学ちば総合医療センター皮膚科のホームページよりダウンロードし、履歴書と併せて提出すること。

F. 研修開始の届け出：

選考に合格した専攻医は、研修開始年の 3 月 31 日までにプログラム研修開始届に必要事項を記載のうえ、プログラム統括責任者の署名をもらうこと。その後、同年4月30日までに皮膚科領域専門医委員会（hifusenmon@dermatol.or.jp）に通知すること。

G. 研修プログラム 問い合わせ先：

帝京大学ちば総合医療センター
佐藤友隆

TEL：0436-62-1211

FAX：0436-62-1273

H. 到達研修目標：

本研修プログラムには、いくつかの項目において、到達目標が設定されている。別冊の研修カリキュラムと研修の記録を参照すること。特に研修カリキュラムのp.26～27には経験目標が掲示しているので熟読すること。

I. 研修施設群における研修分担：

慶應義塾大学医学部皮膚科、帝京大学医学部附属病院皮膚科、埼玉医大総合医療センター皮膚科、東海大学医学部皮膚科では、急性期疾患、頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、乾癬などの専門外来への参加、大学病院本院での入院患者の把握とカンファレンスでのプレゼンと診療の実践、病診連携を習得し、帝京大学ちば総合医療センター皮膚科の研修を補完する。千葉大学医学部附属病院皮膚科では、主に皮膚悪性腫瘍に対する手術療法、化学療法、終末期医療を習得する。

J. 研修内容について**1. 研修コース**

1. 研修コース 本研修プログラムでは、以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。ただし、研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあり得る。また、記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性がある。

コース	研修1年目	研修2年目	研修3年目	研修4年目	研修5年目
a	基幹	基幹	連携	連携	基幹
b	基幹	基幹	連携	連携	連携
c	連携	連携	基幹	基幹	基幹

a：研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。最終年次に当院で後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。連携施設は原則として1年ごとで異動するが、諸事情により2年間同一施設もあり得る。

b：ただちに皮膚科専門医として活躍できるように連携施設にて臨床医としての研修に重点をおいたコース。

c：研修連携施設から研修を開始するコース。

2. 研修方法**1) 帝京大学ちば総合医療センター皮膚科**

1. 研修コース 本研修プログラムでは、以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。ただし、研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあり得る。また、記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性がある。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	手術	外来	外来	外来	外来 病棟	
午後	病棟	手術	外来	病棟	病棟		

2) 連携施設

帝京大学医学部附属病院：

外来：診察医に陪席し、さらに外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。抄読会では1回/月 英文論文を読み、全員でディスカッションする。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟	外来	外来	病棟	準連携	外来	
			レーザー	レーザー	連携		
午後	病棟	回診	病棟	病棟	準連携		
	手術	病理カンファレンス		手術	連携		

東京医科大学病院：

外来：診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療倫理・医療安全・院内感染対策等の講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。文献検索など、自己学習の環境は完備している。コンサルティング業務：皮膚科医は外科系の医師としての側面を持つ。従って、当科の研修プログラムでは、外科系当直、さらに責任をもってコンサルティング業務を行えることを目標に、オンコール勤務を行うことを必須とする

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来/病棟	外来/病棟	外来/病棟	外来/病棟	外来/病棟	外来/病棟 (隔週)	
			手術	手術			
午後	外来/病棟	外来/病棟	外来/病棟	外来/病棟	外来/病棟		
		回診 カンファレンス	手術				

埼玉医科大学 総合医療センター：

外来：診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
					手術		
午後	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟		
	小手術 カンファレンス	小手術 病理		回診 カンファレンス	手術		

慶應義塾大学病院：

外来：診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。一般的な皮膚疾患に関して、実際に目で見て、診断できる能力を身につけ、治療の実際についても習得する。稀少な疾患については皮膚生検や種々の検査を行い、カンファレンスで症例提示を行い、教室員全員からの評価を受けるとともに、一つの疾患、症例を深く掘り下げて診ていく習慣、能力を習得する。病棟：病棟医長の下数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医の下 担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病棟カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。外来と病棟の担当は3ヶ月ごとに定期的に交代し、外来、病棟と異なった皮膚科診療力を身につけられるようにする。抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に2編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：外来

	月	火	水	木	金	土	日
午前	一般外来	一般外来	一般外来	一般外来	一般外来	一般外来	
午後	特殊外来	総合診断 外来	特殊外来	特殊外来	特殊外来	特殊外来	
	皮膚生検	カンファ レンス	手術	手術	皮膚生検		

研修の週間予定表：病棟

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟	
		病棟カン ファレン ス				病棟カン ファレン ス	
午後	病棟全麻 手術	総合診断 外来	病棟	病棟	病棟	病棟	

東邦大学医療センター佐倉病院：

外来：診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表・検討を行い、評価を受ける。抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会、医療倫理講習会、院内感染対策講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。院内他科との症例検討会・研究会に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来	
午後	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟		
	回診	手術	手術	手術			
	カンファ レンス						

東海大学医学部付属病院：

外来：診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来	外来 (1, 3, 5 週)	
午後	専門外来 病棟	回診	手術	専門外来	外勤		
		病理カン ファレン ス	病棟	病棟			

千葉大学医学部附属病院：

外来：診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。特に、皮膚科的検査としてダーモスコピー、真菌検査、体表エコー、皮膚生検、パッチテストなどを十分に経験する。診断・治療に検討を要する症例や手術症例は、毎週の外来クリニカルカンファレンスにて専攻医がプレゼンテーションし、全員で検討したのち、指導医と専攻医からなる複数名のチームで診療にあたる。病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、内服や注射薬による治療、手術手技、創処置を習得する。毎日の病棟回診と週1回の病棟カンファレンスで受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、診療に従事し、評価を受ける。手術：基幹病院での研修1年目終了までに、粉瘤摘出術、良性腫瘍切除術、植皮術などを経験する。また、悪性腫瘍切除術の第1助手を経験し、評価を受ける。カンファレンス：外来クリニカルカンファレンス（週1回）、病棟カンファレンス（週1回）、病理カンファレンス（週1回）、手術症例カンファレンス（週1回）、写真カンファレンス（週1回）を行っている。専攻医は担当患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。抄読会：月に1回以上、抄読会に参加する。講習会・学会：皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナー、病院が実施する医療安全、感染対策、医療倫理講習会に定期的に参加する（年間予定表を参照）。論文執筆：年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。学習環境：医局の蔵書、医学部図書館の利用、オンラインによる論文のフリーダウンロードが可能である。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟朝回診	病棟朝回診	病棟朝回診m	病棟カンファレンス	病棟朝回診		
	外来 手術	外来	外来 手術	教授回診 外来クリニカルカンファレンス	外来		
午後	病棟	病棟	病棟	病棟 抄読会（臨床）写真 病理手術	病棟		
	病理カンファレンス	抄読会（研究） デモンストラ	手術				

研修の年間予定表

月	行事予定
4	1年目：研修開始。皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。2年目以降：前年度の研修目標達成度評価報告を行う。
5	
6	日本皮膚科学会総会（開催時期は要確認）
7	
8	研修終了後：皮膚科専門医認定試験実施
9	
10	試験合格後：皮膚科専門医認定 日本医真菌学会参加（開催時期は年度によって異なる）
11	
12	研修プログラム管理委員会を開催し、専攻医の研修状況の確認を行う（開催時期は年度によって異なる）
1	
2	5年目：研修の記録の統括評価を行う。
3	当該年度の研修終了し、年度評価を行う。皮膚科専門医受験申請受付

K. 各年度の目標：

1, 2年目：主に帝京大学ちば総合医療センター皮膚科において、カリキュラムに定められた一般目標、個別目標（1.基本的知識2.診療技術3.薬物療法・手術・処置技術・その他治療4.医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識5.生涯教育）を学習し、経験目標（1.臨床症例経験2.手術症例経験3.検査経験）を中心に研修する。

3年目：経験目標を概ね修了し、皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。

4, 5年目：経験目標疾患をすべて経験し、学習目標として定められている難治性疾患、稀な疾患など、より専門性の高い疾患の研修を行う。3年目までに習得した知識、技術をさらに深化・確実なものとし、生涯学習する方策、習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり、その成果を国内外の学会で発表し、論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり、研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。

毎年度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、東京地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し、診療能力の向上に努める。

PubMedなどの検索や日本皮膚科学会が提供するE-ラーニングを受講し、自己学習に励む。

L. 研修実績の記録：

1. 「研修手帳」を、日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし、利用すること。

2. 専攻医研修管理システムおよび会員マイページ内に以下の研修実績を記録する。

経験記録（皮膚科学各論、皮膚科的検査法、理学療法、手術療法）、講習会受講記録（医療安全、感染対策、医療倫理、専門医共通 講習、日本皮膚科学会主催専攻医必須講習会、専攻医選択講習会）、学術業績記録（学会発表記録、論文発表記録）。

3. 専門医研修管理委員会はカンファレンスや抄読会の出席を記録する。

4. 専攻医、指導医、総括プログラム責任者は専攻医研修管理システムを用いて下記（M）の評価を毎年保存する。

5. 「皮膚科専門医研修マニュアル」を、日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし、確認すること。特にp.15～16では「皮膚科 専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

M. 研修の評価：

診療活動はもちろんのこと、知識の習熟度、技能の修得度、患者さんや同僚、他職種への態度、学術活動などの診療外活動、倫理社会的事項の理解度などにより、研修状況を総合的に評価され、「研修の記録」に記録される。

1. 専攻医は「研修の記録」のA.形成的評価票に自己評価を記入し、毎年3月末までに指導医の評価を受ける。また、経験記録は所定の評価期間内に指導医の確認を受ける。

2. 専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価、指導医に対する評価、研修施設に対する評価、研修プログラムに対する評価を記載し、指導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合、研修プログラム責任者に直接伝えることとする。

3. 指導医は専攻医の評価・フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また、看護師などに他職種評価を依頼する。以上を研修プログラム責任者に毎年提出する。

4. 研修プログラム責任者は、研修プログラム管理委員会を開催し、提出された評価票を元に次年度の研修内容、プログラム、研修環境の改善を検討する。

5. 専攻医は研修修了時までに全ての記載が終わった「研修の記録」、経験症例レポート15例、手術症例レポート10例以上をプログラム統括責任者に提出し、総括評価を受ける。

6. 研修プログラム責任者は、研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し、総括評価を記載した研修修了証明書を発行し、皮膚科領域専門医委員会に提出する。

N. 研修の休止・中断、異動：

1. 研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれない。

2. 研修期間のうち、産休・育休に伴い研修を休止している期間は最大6ヶ月までは研修期間に認められる。なお、出産を証明するための添付資料が別に必要となる。

3. 諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設のプログラムへ異動する必要がある場合、すみやかにプログラム統括責任者に連絡し、中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

O. 労務条件、労働安全：

労務条件は勤務する病院の労務条件に従うこととする。

給与、休暇等については各施設のホームページを参照、あるいは人事課に問い合わせること。なお、当院における当直はおおむね2～3回/月程度である。

2026年4月17日

帝京大学ちば総合医療センター皮膚科

2027年 4月1日

帝京大学ちば総合医療センター皮膚科

専門研修プログラム統括責任者

佐藤 友隆